



## 安全データシート (SDS)

### 1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社  
 東京都中央区日本橋本町4-3-8  
 担当  
 TEL (03) 3270-2701  
 FAX (03) 3270-2720  
 緊急連絡 同上  
 改訂日 2022/09/05  
 SDS整理番号 04061250

製品等のコード : 0406-1250、0406-1260、0406-1280

製品等の名称 : フタル酸ジ-n-ブチル (ジ-n-ブチルフタレート、DBP)

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途 (当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。) ラッカー、接着剤、レザー、印刷インキ、安全ガラス、セロハン、染料、殺虫剤の製造、香料の溶剤、織物用潤滑剤、ニトロセルロース・塩化ビニル樹脂・セルロースアセテート・ポリスチレン・メタクリル樹脂の可塑剤、化粧品原料など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

##### 物理化学的危険性

引火性液体 : 区分に該当しない  
 自然発火性液体 : 区分に該当しない

##### 健康に対する有害性

急性毒性 (経口) : 区分に該当しない  
 皮膚刺激性/刺激性 : 区分に該当しない  
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分に該当しない  
 皮膚感作性 : 区分1  
 生殖毒性 : 区分1B  
 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分3 (気道刺激性)  
 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 区分1 (呼吸器)

##### 環境に対する有害性

水生環境有害性 短期 (急性) : 区分1  
 水生環境有害性 長期 (慢性) : 区分2

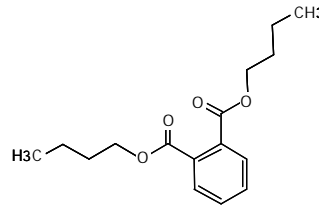
注意喚起語 : 危険

##### 危険有害性情報

アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ  
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
 呼吸器への刺激のおそれ  
 長期又は反復ばく露による呼吸器の障害  
 水生生物に非常に強い毒性  
 長期継続的影響により水生生物に毒性

##### 注意書き

【安全対策】  
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
 ミスト、蒸気などを吸入しないこと。



取扱い後は、よく手を洗うこと。  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具を着用すること。  
 環境への放出を避けること。

## 【救急措置】

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。  
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察、手当を受けること。  
 気分が悪い時は医師に連絡すること。  
 皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。  
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。  
 漏出物を回収すること。

## 【保管】

日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

## 【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

## 3. 組成及び成分情報

|                   |  |
|-------------------|--|
| 化学物質・混合物の区別       | 化学物質   |
| 化学名               | フタル酸ジ-n-ブチル<br>(別名) ジ-n-ブチルフタレート、DBP、ジブチルフタレート、<br>ジブチルフタラート、1,2-ベンゼンジカルボン酸ジブチル、<br>フタル酸ジブチル、フタル酸ジ-n-ブチル、<br>ジブタン-1-イル=フタラート<br>(英名) Di-n-butyl phthalate, Dibutyl phthlate(EC名称)、<br>1,2-Benzenedicarboxylic acid dibutyl、<br>Phthalic acid di-n-butyl、<br>1,2-Benzenedicarboxylic acid dibutyl ester、<br>Phthalic acid dibutyl, Dibutan-1-yl phthalate、<br>1,2-Benzenedicarboxylic acid, 1,2-dibutyl ester<br>(TSCA名称) |
| 成分及び含有量           | フタル酸ジ-n-ブチル、 98.0%以上   |
| 化学式、構造式           | C <sub>6</sub> H <sub>4</sub> [COO(CH <sub>2</sub> ) <sub>3</sub> CH <sub>3</sub> ] <sub>2</sub> 、 C <sub>16</sub> H <sub>22</sub> O <sub>4</sub> 、 構造式は上図参照(1ページ目)。   |
| 分子量               | 278.34   |
| 官報公示整理番号          | 化審法：(3)-1303<br>安衛法：公表化学物質(化審法番号を準用)   |
| CAS No.           | 84-74-2  |
| TSCA              | 収載済(84-74-2)   |
| EC No.            | 201-557-4  |
| REACH：高懸念物質(SVHC) | 該当(Candidate List及びAuthorisation List)<br>「Dibutyl phthalate (DBP)」  |
| 危険有害成分            | フタル酸ジメチル   |

## 4. 応急処置

|                  |   |
|------------------|---|
| 吸入した場合           | ： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。<br>気分が悪い時は、医師の手当を受ける。   |
| 皮膚に付着した場合        | ： 皮膚を多量の水と石鹸で洗う。<br>皮膚刺激又は発疹が生じた時は、医師の診察、手当を受ける。<br>汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。  |
| 目に入った場合          | ： 直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてから<br>ゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水<br>で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。<br>まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの<br>隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。<br>次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。<br>その後も洗浄を続ける。<br>眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。 |
| 飲み込んだ場合          | ： 口をすすぎ、うがいをする。<br>大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。<br>意識がない時は、何も与えない。<br>気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。  |
| 予想される急性症状及び遅発性症状 | ： 吸入：粘膜・上気道の刺激、吐き気、頭痛、めまい   |

皮膚 : 刺激、発赤  
 眼 : 刺激、炎症  
 経口摂取: 腹痛、めまい、吐き気

応急措置をする者の保護 : 救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 本製品は可燃性である。  
 散水、噴霧水、粉末消火剤、通常の泡消火剤、二酸化炭素  
 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。  
 使ってはならない消火剤 : 棒状放水 (本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。)  
 特有の危険有害性 : 引火点(157 )以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。  
 加熱により容器が爆発するおそれがある。  
 火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。  
 消火水は環境汚染を引き起こすおそれがある。  
 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を遮断する。  
 火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。  
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。  
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。  
 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は風上から行き、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。  
 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。  
 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。  
 風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。  
 蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。  
 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。  
 環境に対する注意事項 : 河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。  
 回収、中和 : 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。  
 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて密閉できる空容器に回収する。  
 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。  
 二次災害の防止策 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。  
 周辺の発火源を速やかに取除く。  
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い  
 技術的対策 : 裸火禁止。強力な酸化剤との接触禁止。  
 ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。  
 指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。  
 指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。  
 指定数量の1/5以上、1未満 (少量危険物) の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。  
 指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要はない。  
 炎、火花または高温体との接触を避ける。  
 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。  
 局所排気・全体換気 : 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。  
 蒸気は空気より重く、床に沿って移動することから、床面に沿って換気する。  
 安全取扱い注意事項 : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。  
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。  
 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。  
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
 取扱い後はよく手を洗う。  
 接触回避 : 炎、火花または高温体との接触を避ける。  
 保管

- 技術的対策 : 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。  
保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。  
保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。  
保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
- 保管条件 : 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙。  
光のばく露や高温を避けて保管する。  
容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する。  
必要に応じ施錠して保管する。  
必要に応じて危険物を貯蔵する所には「火気厳禁」等の表示を行う。
- 混触危険物質 : 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。  
強酸化剤 (硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなど)
- 容器包装材料 : ガラスなど。  
塩化ビニル樹脂、ポリスチレン樹脂などを侵す。

<参考> 容器包装材料の室温における耐薬品性 (あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要)

【 :良好 :やや良好(条件による) :やや不良 x:不良 -:データなし 】

スチレンゴム x クロロブレンゴム(ネオブレン) x ニトリルゴム x ブチルゴム  
天然ゴム x シリコンゴム フッ素ゴム(バイトン、ダイエル) テフロン  
軟鋼 ステンレス(SUS304 SUS316) チタン アルミニウム 銅  
軟質塩ビ x 硬質塩ビ x ポリスチレン x ABS x ポリエチレン ポリプロピレン  
ナイロン アセタール樹脂 - アクリル樹脂 ポリカーボネート - ガラス

8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない。  
許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標) :  
日本産業衛生学会 5mg/m3  
ACGIH TLV-TWA 5mg/m3
- 設備対策 : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。  
取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
- 保護具  
呼吸器の保護具 : 呼吸器保護具 (有機ガス用防毒マスク) を着用する。  
手の保護具 : 保護手袋 (ネオブレン製など) を着用する。  
眼の保護具 : 保護眼鏡 (普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型) を着用する。  
皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣を着用する。  
必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
- 衛生対策 : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
取扱い後はよく手を洗う。  
保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態  
性状 : 液体  
色 : 無色 - 淡黄色  
臭い : 特異臭  
pH : データなし  
融点 : -35  
凝固点 : データなし  
沸点 : 340  
引火点 : 157 (密閉式)  
可燃性 : 可燃性  
爆発範囲 : 下限 0.7vol%、 上限 2.5vol%  
蒸気圧 : 0.01 kPa (20 )  
相対ガス密度 (空気 = 1) : 9.58  
密度又は相対密度 : データなし  
比重 : 1.047 ~ 1.051 (20/20 )  
溶解度 : 水にほとんど溶けない (0.001g/100mL、25 )。  
エタノール、エーテル、アセトンに混和しやすい(溶けやすい)。  
オクタノール/水分配係数 : log Pow = 4.72  
発火点 : 402  
分解温度 : データなし  
粘度 : データなし



|         |   |
|---------|---|
| 動粘度     | : データなし   |
| 粒子特性    | : データなし   |
| GHS分類   |   |
| 引火性液体   | : 引火点は157 (closed cup) (HSDB (Access on July 2013)) であり、93 を超えることから、区分に該当しないとされた。 |
| 自然発火性液体 | : 発火点は402 (HSDB (Access on July 2013)) であり、常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分に該当しないとされた。   |

## 10. 安定性及び反応性

## 安定性 (反応性・化学的安定性)

|            |  |
|------------|--|
|            | : 通常の取扱条件において安定である。<br>アルカリ性溶液で加水分解を受ける。               |
| 危険有害反応可能性  | : 強酸化剤と接触すると激しく反応することがある。<br>塩化ビニル樹脂、ポリスチレン樹脂を侵すことがある。 |
| 避けるべき条件    | : 高熱、日光、火源、静電気、スパーク                                    |
| 混触危険物質     | : 強酸化剤 (塩素酸Na、過塩素酸Na、過酸化水素、過酸化Na、硝酸アンモニウムなど)、強酸、強塩基    |
| 危険有害な分解生成物 | : 加熱分解により一酸化炭素、二酸化炭素を生じる。                              |

## 11. 有害性情報

|                  |   |
|------------------|---|
| 急性毒性             | : 経口 ラット LD50 = 6,300 mg/kg (EU-RAR (2004))<br>区分に該当しない。<br>なお、23歳の男性労働者がおよそ10 gを誤飲したヒト事例において、嘔吐、めまい、数時間後に流涙、眼の痛みを生じ、重度の角膜炎を生じた。尿検査で、顕微血尿、シュウ酸結晶、白血球が認められた (EU-RAR (2004)) との記載がある。<br>経皮 ウサギ LD50 > 20,000 mg/kg (EU-RAR (2004)、PATTY (6th, 2012)、NITE 初期リスク評価書 (2005))<br>区分に該当しない。 |
|                  | 吸入 (蒸気) 分類できない。<br>吸入 (ミスト) ラット LC50 (ミスト) 15.68 mg/L (EU-RAR (2004))<br>区分に該当しない。  |
| 皮膚腐食性            | : 区分に該当しない。<br>NITE初期リスク評価書 (2005)、EU-RAR (2003) には、皮膚刺激性がみられたとの記載があるが、EU-RAR (2003) の補遺EU-RAR (2004) (Addendum to the Environmental Section) にて、OECD TG404に準拠した試験で刺激性となしとの結果が記載され、補遺 EU-RAR (2004) の結論として刺激性なしとしていることから、区分に該当しないとされた。  |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | : 区分に該当しない。<br>NITE初期リスク評価書 (2005)、EU-RAR (2003) には、眼刺激性がみられ、48又は72時間後に回復しているとの記載があるが、EU-RAR (2003) の補遺EU-RAR (2004) (Addendum to the Environmental Section) にて、OECD TG405に準拠した試験で刺激性となしとの結果が記載され、補遺EU-RAR (2004) の結論として刺激性なしとしていることから、区分に該当しないとされた。                                  |
| 呼吸器感受性           | : 分類できない。   |
| 皮膚感受性            | : EU-RAR (2004)、EHC 189 (1997) の記述から、動物実験ではフタル酸ジブチルは皮膚感受性を示していないが、ヒトの事例研究から陽性を示唆する結果があり、産衛学会勧告 (2012) は皮膚感受性を第2群に、日本職業・環境アレルギー学会特設委員会 (2004) は皮膚感受性有りに分類しているため、区分1とした。<br>アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ (区分1)   |
| 生殖細胞変異原性         | : 区分に該当しない。<br>In vivoでは、マウスの末梢血赤血球を用いる小核試験で陰性の結果が報告されている (NITE初期リスク評価書 (2005)、EHC 189 (1997)、EU-RAR (2004))。   |
| 発がん性             | : 区分に該当しない。<br>IARCの発がん性評価でグループ3、IRIS (1993) でDに分類されている。  |
| 生殖毒性             | : NITE初期リスク評価書 (2005) の記述から、ラット及びマウスに経口 (混餌) 投与した生殖毒性試験でF0の生殖能低下、精巣の萎縮、精子生産能の低下、妊娠中期の流産、出産児数 (率) の低下がみられ、また、妊娠ラット及びマウスに経口 (強制または混餌) 投与した複数の発生毒性試験で胎児、児動物に奇形 (外表奇形、骨格奇形) がみられ、さらに、ラットでは次世代雄の精巣及び副生殖腺の発生異常が見られている。<br>ラットの生殖毒性及びラット、マウスにおける発生毒性影響の多くは親動物に体重増加抑制、肝臓重量増加などの一般毒性影響がみられない   |

- 用量から発現している。  
従って、区分1Bとした。  
生殖能または胎児への悪影響のおそれ (区分1B)
- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : マウスに吸入ばく露 (エアロゾル) した試験で、250 mg/m<sup>3</sup> (ガイダンス値換算: 0.125 mg/L/4hr) で上気道刺激、呼吸抑制症状などがみられており (ACGIH (7th, 2001))、区分3 (気道刺激性) に分類した。  
呼吸器への刺激のおそれ (区分3)
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : ラットの4週間吸入 (エアロゾル) ばく露試験で、区分1のガイダンス値の範囲内の低濃度 (118 mg/m<sup>3</sup>; ガイダンス値換算濃度: 0.00036 mg/L/6 hr) から、局所影響として鼻腔粘膜細胞の過形成及び喉頭の扁平上皮化生が認められたとの記述 (EU-RAR (2004)) があり、区分1 (呼吸器) に分類した。  
経口投与ではマウス及びラットのいずれの試験も区分2のガイダンス値を超える高用量 (238 mg/kg/day以上) で、肝臓、血液、精巣などに有害性影響が見られた (NITE初期リスク評価書 (2005))。  
従って、区分1 (呼吸器) とした。  
長期又は反復ばく露による呼吸器の障害 (区分1)
- 誤えん有害性 : 分類できない。

## 12. 環境影響情報

- 生態毒性
- 水生環境有害性 短期 (急性) : 魚類 (イエローパーチ) 96時間LC50 = 0.35 mg/L (NITE初期リスク評価, 2005; CEPA, 1994; EU-RAR, 2003; EHC 189, 1997)  
水生生物に非常に強い毒性 (区分1)
- 水生環境有害性 長期 (慢性) : 急速分解性があり (28日間BOD分解度 = 69% (既存点検, 1975)、BOD5:COD ratio = 0.63 (EU-RAR, 2003))、甲殻類 (ヨコエビ科の一種) の10日間NOEC = 0.10 mg/L (NITE初期リスク評価, 2005他)、魚類 (ニジマス) の99日間NOEC = 0.10 mg/L (NITE初期リスク評価, 2005他) であることから、区分2とした。  
長期継続的影響により水生生物に毒性 (区分2)
- 残留性・分解性 : 良分解性。BOD分解度 = 69%
- 生物蓄積性 : 高濃縮性。Log Kow = 4.72
- 土壌中の移動性 : データなし
- オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

## 13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。  
都道府県知事などの許可 (収集運搬業許可、処分業許可) を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票 (マニフェスト) を交付して廃棄物処理を委託する。  
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。  
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。  
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。  
(参考) (1) 燃焼法  
可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉 (おが屑) 等に吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。  
(2) 活性汚泥法  
生分解性があるので、低濃度の廃水は活性汚泥処理が可能である。
- 汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

## 14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 171

## 国際規制

海上規制情報 (IMDGコード/IMOの規定に従う)

UN No. : 3082

Proper Shipping Name : ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S.  
(Dibutyl phthalate)

Class : 9 (有害性物質)  
 Sub risk : -  
 Packing Group : III  
 Marine Pollutant : Yes (該当)  
 TRANSPORT IN BULK ACCORDING TO ANNEX II OF MARPOL 73/78 AND THE IBC CODE  
 POLLUTANT CATEGORY : X (フタル酸ジブチル)  
 Limited Quantity : 5L  
 航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)  
 UN No. : 3082  
 Proper Shipping Name : Environmentally hazardous substance, liquid, n.o.s.  
 (Dibutyl phthalate)  
 Class : 9  
 Sub risk : -  
 Packing Group : III

国内規制  
 陸上規制情報 (消防法、道路法の規定に従う。)  
 海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)

国連番号 : 3082  
 品名 : 環境有害物質 (液体)  
 クラス : 9  
 副次危険 : -  
 容器等級 : III  
 海洋汚染物質 : 該当  
 MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : X (フタル酸ジブチル)  
 少量危険物許容量 : 5L  
 航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)

国連番号 : 3082  
 品名 : 環境有害物質 (液体)  
 クラス : 9  
 副次危険 : -  
 等級 : III  
 少量輸送許容物件 : 30kg (包装込みの質量)  
 許容量 : 30kg (包装込みの質量)  
 特別の安全対策 : 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒しもしくは破損しないように積載する。  
 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。  
 危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報する。  
 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に持つ。  
 重量物を上積みしない。  
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
 必要に応じ移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物  
 (政令番号 第479号「フタル酸ジ ノルマル ブチル」、  
 対象重量%は 0.3)  
 名称等を通知すべき危険物及び有害物  
 (政令番号 第479号「フタル酸ジ ノルマル ブチル」、  
 対象重量%は 0.1)  
 (別表第9)

化審法 : 旧第二種監視化学物質 No.1076「フタル酸ジ - n - ブチル」  
 (官報公示日: 2010/04/01)

消防法 : 危険物第4類引火性液体、第三石油類 非水溶性液体 指定数量2000L  
 危険等級 (法第2条第7項危険物別表第1)

毒物及び劇物取締法 : 非該当  
 化学物質排出管理促進法 (PRTR法)  
 : R5年3月31日まで、  
 ・種 別 「第1種指定化学物質」  
 ・政令番号 「1-354」  
 ・政令名称 「フタル酸ジ - ノルマル - ブチル」  
 R5年4月1日から、

- ・分類 「第1種指定化学物質」
- ・政令番号 「1-395」
- 管理番号: 354
- ・政令名称 「フタル酸ジブチル」
- 船舶安全法 : 有害性物質
- 航空法 : その他の有害性物質
- 海洋汚染防止法 : 有害液体物質 X 類物質 (施行令別表第1)
- 水質汚濁防止法 : 生活環境項目 (施行令第三条第一項)
- 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」
- 〔排水基準〕160mg/L 以下 (日間平均 120mg/L 以下)
- (注) 排水基準に別途、条例等による上乘せ基準がある場合はそれに従うこと。
- 大気汚染防止法 : 有害大気汚染物質 (中環審第9次答申の189)
- 「フタル酸ジブチル (別名: フタル酸ジ - n - ブチル)」
- 輸出貿易管理令 : キャッチオール規制 (別表第1の16項)
- HSコード: 2917.34
- 第29類 有機化学品
- ・輸出統計番号 (2022年版): 2917.34-000
- 「ポリカルボン酸並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体
- 芳香族ポリカルボン酸並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらの誘導: その他のオルトフタル酸エステル」
- ・輸入統計番号 (2022年4月1日版): 2917.34-010
- 「ポリカルボン酸並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体
- 芳香族ポリカルボン酸並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらの誘導: その他のオルトフタル酸エステル
- オルトフタル酸ジブチル」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

|  |                          |    |
|--|--------------------------|----|
| 参考文献 :   |                          |    |
| 化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ                       | 化学工業日報社                  |    |
| 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ                              | 化学工業日報社(2007)            |    |
| 化学物質の危険・有害便覧                                     | 中央労働災害防止協会編              |    |
| 化学大辞典  | 共同出版                     |    |
| 安衛法化学物質  | 化学工業日報社                  |    |
| 産業中毒便覧(増補版)                                      | 医歯薬出版                    |    |
| 化学物質安全性データブック                                    | オーム社                     |    |
| 公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)                            | 三共出版                     |    |
| 化学物質の危険・有害性便覧                                    | 労働省安全衛生部監修               |    |
| Registry of Toxic Effects of Chemical Substances | NIOSH CD-ROM             |    |
| GHS分類結果データベース                                    | nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) | HP |
| GHSモデルMSDS情報                                     | 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター    | HP |

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。